2S03　学会誌の創刊とその発展

時田澄男
埼玉大学名誉教授（〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255）

「学会」というのは、「学問や研究の従事者らが、自己の研究成果を公開発表し、その科学的妥当性をオープンな場で検討論議する場」である。 また同時に、「査読、研究発表会、講演会、学会誌などの研究成果の発表の場を提供する業務や、研究者同士の交流などの役目を果たす機関」でもある。福井高専の吉村忠與志教授が 1982 年に組織した「化学 PC 研究会」は、この意味で実質的に学会の役割を果たしていたが、日本学術会議の登録団体ではなかった。わが国では、学会として公的に認知されるためには、政府の諮問機関である日本学術会議に登録する必要がある。この手続きについてお知恵を授けて下さったのは、埼玉大学の下沢隆教授であった。一方、同じ大学に所属していた著者は、化学者が自身で開発したプログラムをはじめとして、情報関係の仕事を発表する学会誌がきわめて少ないことを残念に思っていた。そこで、1990 年ころから、下沢・吉村両先生にお願いして、化学 PC 研究会の学会化と同時に、学会誌を創刊する企画をたてた。こうして、1992 年に、化学ソフトウエア学会と、 *Journal of Chemical Software*（JCS） 誌が誕生した。

日本コンピュータ化学会は、2002 年、化学ソフトウエア学会と、日本化学プログラム交換機構が合併して発足した。それぞれの組織が発行していた JCS 誌と JCPE Journal 誌も合わせて、新たに *Journal of Computer Chemistry, Japan*（JCCJ）に衣替えして、丁度 10 周年ということになる。

JCS と JCCJ に掲載された論文数の推移を学会誌創刊以来の約 20 年間について辿ってみると、年度によって凸凹はあるが、年とともに着実に件数が増加している。この間、1997 年には、わが国の学会としては比較的早期に電子出版の試行を開始し、1999 年からは、JST（現在の日本科学技術振興機構）の J-STAGE からも公開している。また、2002 年の JCCJ 創刊を契機に英文投稿規定も制定して国際的な学術誌としての体裁を整えた。2007 年には、電子投稿と審査のシステムも稼動を開始した。

本誌の電子出版に関しては中野英彦教授のご尽力によるところが大きい。昨年度、この関係の仕事が、編集室と日本プリプレス株式会社（JPP）に引き継がれた。本年度は、電子投稿審査システムが Stage2 から Stage3 へと大幅に変更される予定である。日常の多忙な業務に加え、これらにも対応されている編集室の太刀川達也幹事、中村恵子さん、事務局の後藤仁志幹事長、和多田裕子さん、JPP の佐藤博さん、ならびに関係者の皆様に深く御礼を申し上げる次第である。

学会誌が少しずつ発展を遂げてきたとすれば、その最大の支援者は、投稿者としての会員の方々であると感謝している。皆様からの玉稿を今後もお願いして筆を置きたい。